一 赤坂御前より□□ハ堀尾帯刀

一 石田治部少輔ハ関ヶ原にて行列伊吹山へ落行しが江州草野谷
初ニ之に付て當所役以源通寺と申寺に居候
時へ持参御吟味つよく候處夫ヲ川井村源右衛門と申者捕へ
田中兵部殿にて召捕由
以上

三輪の事

三の輪ハ清く口の二は輪口物を遣る輪口物を請ん輪輪は丸きなる
故に始もなく終もなし天地の間に人有の物を人にやるも又
物を請るも輪のごとし始もなく終もなしやはりまた始もなし
と神代の古より伝へと申也されバ也
昔男害をなし福禄を求るハ人形を作り姓名を紙書付穢を
移せり延喜式ニ陳の人形出よ伊勢にて神楽ニ河ニ打ハ紙ニて
作り是神代の遺法也今の世ニ年三月三日雛と申物
多くハ穢の遺風にして唐の上巳の穢を祓ふ流ニ結ひ
門裏雛なとゝ云て米常の人形を求め調度の動きに通へて
そハめのやや又昔にもあれ人として白紙に作り姓名を書付て
ふハ人など呪咀に懸しも似なる人三ツ捨華を前ニ送りハ原紙にて

ルモ雛ナルヲ云ハ是モ同シク児女ハ稚キニ武ヲ家ヲ顕ハシタル
幼雅ニ附ヨリ衣食ヲ与ヘ成長ヲ知ラシメンタメナリト云ハ事ヲ好ム
ナシト云フ説モ侍リ

織女七月七日ニ織物ヲ祭ル事 牽牛ノ祭ハ棚底子ヲハタナ
ハタヒメハ白鶴ノ神ナリ織ヲ家ニ祭ル事ハ云ヘル事ト
ス人是ヲ知ルヘシ星祭同日ナレハ織女ノ名ヲ借リテ牽
牛ノ故事ニ合セリ

道傳啟ノ家ニ語ル大丈八人アリ 進資 門資 道資 如資

承資 遠資 武資 安資是ヲ八ツ資ト云ヘリ 當資東氏
ノ氏族モ道傳啟ヨリ出テ古来流語ヲ国ニ至リ以テ如何ヲ
道資ハ道ニ遠資ハ遠ニトリテ其ハ云フ事也 進資
承資ハいつきの国をさしていへしや
仕政範開シ語セリ 進資ハ志ヲ取ナリ門資分ナル
モノハ門資道ハ分ナルモノハ道資如資分ナルモノハ如資承資
ナルモ承資遠ハ分ナル遠資武者分ナル武資安信ナル織
安資ト云ヘキカ
姓ノ朝臣ハ名ノ朝臣ノ事参議ヲ語臣ヤ以上大徳ナル事

勅をかうふりて大政官中の政をも参り議せしむ参議とかきりしく
四位已上にて任すれハ名の上に書く公卿朝臣と称す参議唐名
諫議朝臣の類也参議三位以上己上にて任すれハ其姓を上にかく又
宰相朝臣といふ又一説参議未三位以下ハ名朝臣よし又宰相
宰相朝臣にかくといふへし四位迄ハ名字にて四位の名の下に朝
臣をつくる也

梅実とは口中に津液のたまるハ酸き味をもちたる故也そ
万事皆かくのことし本に学ふ事回に蔵するハ自然の蔵蓄也や
死ぬ後の子孫しをまして名をいひあらはしめさする者あり云々

さやいふ人梅のすき味をも一生すかぬ人あれハ梅と聞てより
口中に唾わき流しまするや梅実の味をすかぬ人ハ百万人に二三人
もいてましかれハ今うちの味すかぬ人世にまれ成へし
一歌中山清閑寺に燕得寺より又人ゝはなし又菅川かしたるとぞいへり
人を見る時ハ本心にたち帰りたまへる女の人たちあひまみへ
女のかたちたち深く紀りあれハ物いひかくつきをむくる
清水の底ハいつもそれをひりきれハ女　見るに上にまをしく人の
またくらる道ハいふらしくかはき色をもひ捨ててやかくて姿態
見ることあれハけらしき女人ハ他人を付りまかせ寺の前よりし

所をこの中山といふなるへし

清水寺と清閑寺の間大谷本願寺の東の山也

或醫書に云車に不乗解薬方あり一名手なとゝいふハ人参子なり
といふも車に乗ぬといふ也又俗に不乗車ハ老人車酔用ゆれハ
ゆりやとあり（本草綱目本の方と見ゆれハことかはりしなり
たゞ我藏の人にたつ子ハ日ありつくましハ皆車酔用ひた
りけるとかの人ゝ見るにて妓女の郡近も皆のりしとや今昔物語
小原村光か郎に本英道本室武公附の三人か藏外見えとく
其本国の車をかりくこいとの車にのりく出かりあるかはけりも
あらいぬ者もかゝく公ハ解に不ひく車にもたまくさうかれそ
物見にあらハさかるしして按清寄の一条の家ハかへりけ
由云々

昌平坂

国立公文書館
National Archives of Japan